

【令和5年度 理科授業改善推進プラン】

理科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

- ・課題の把握（発見）、課題の探究（追究）、課題の解決という探究の過程を通じた学習活動を行い、生徒が主体的に自然事象と関わり、それらを科学的に探究することができる。
- ・授業で学んだ基礎的な知識を用いて、自然の事象について、論理的に仮説を立てたり、結論をまとめたりすることができる。
- ・授業で学んだ実験・観察の技能を活用して、結果を分析したり、解釈して表現したりすることができる。
- ・自然の事象に関心を持ち、学習したことと結び付けて捉えようとする。

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	・観察に意欲的に取り組む。 ・提出物を期限内に仕上げようとする姿勢が多く見られる。しかし、提出できない生徒や内容に不十分な生徒もいる。 ・学習者用端末を活用した授業を行っているが、ほとんどの生徒が検索して文字を入力したり、スライド等の作成をしたりすることができる。 ・授業の目標が分かり、見通しをもって授業を受けられている生徒が 100%である。	・実験・観察に対して、意欲的に取り組む生徒が多い。 ・多くの生徒は、基礎的な内容を理解している。 ・知識はあるものの、知識を活用し、思考・表現することに課題がある。 ・分からない場合は周囲と協力し、解決していくことができる。	・観察・実験への興味関心が高く、課題に集中して取り組み、まとめられる生徒が多い。 ・実験観察の結果をまとめることはできるが、的確な考察をする力が不足している。 ・課題について、周囲と話し合いながら解決策を考えることができる。 ・授業の目標が分かり、見通しをもって授業を受けられている生徒が 97.4%である。
指導上の課題	・基礎的な知識や技能の定着が不十分だと思われる生徒に対してのこまやかな対応が不足している。 ・家庭学習の習慣化が不十分な生徒に対しての対応が不足している。	・考える時間は確保しているものの、他者と考えを深める機会が少ない。 ・自ら課題を設定し、実験を立案、検証する機会が不足している。	・学習内容を時間を空けて復習する機会が不足している。 ・探究活動を取り入れる機会が少ない。

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	・観察実験では、目的を意識して取り組み、結果を考察したりする時間を確保する。 ・学習内容の振り返りとして、演習問題に取り組む時間を確保する。	・実験方法を工夫し、状況に合わせた実験を行うようにする。 ・探究活動を取り入れ、身近な事象について考える機会を設ける。	・観察実験については、目的に合った適切な考察を行う。 ・1、2年生の既習事項の確認を問題集を活用して行う。単元や長期休暇明けに小テストや単元テストを実施する。
指導面	・1時間のねらいを明確にし、振り返りの時間を確保した展開をする。 ・授業内で、演習問題にこまめに取り組めるように的確な指示を早めに出す。 ・観察実験を行うグループを配慮し、スムーズに学習を進め深められるようにする。	・単元や授業のねらいを明確にし、振り返りの時間を確保した展開をする。 ・問題集の取り組み方やテスト前の学習方法など一人一人に合わせた指導を行う。 ・実験・観察の考察を十分に行い、自分の考えをもたせるようにする。苦手な生徒には、考え方の道筋を示すようにする。	・学習者用端末を用いて、動画や画像など興味を引かせる題材を工夫する。また、探究活動の意見共有や共同編集、話し合いの発表にも効果的に活用する。 ・学期に複数回、探究活動を行う。（自分または班で課題を設定し、仮説を立て、実験を考え実行し、考察する。）

評価

- ① 定期テスト観点別学習状況による評価
- ② 小テスト、ワークシート、実験・観察レポートによる評価
- ③ 授業アンケート結果による達成度評価

[ここに入力]